

スマイリー Ian Smillie

『貧困を救うテクノロジー』2000年刊

本書は、自らも NGO の創設や運営にかかわりつつ、長年にわたり開発援助の世界をウォッチしてきたイアン・スマイリーが、適正技術と援助の実績や課題を、多くの事例を引きながら論じたものである。初版は 1990 年に出版され、世界各地の大学のテキストに採用されて、2000 年に、その後の状況をふまえた改定版が出されている。

第 1 部は、1950～60 年代の開発援助を総括し提言をまとめた 1969 年のピアソン報告から始まり、世界経済における南北の協力関係の構築をうたった 1979 年のブランド報告、1980 年代から始まった構造調整政策、持続可能な開発の理念を打ち出した 1987 年のブランドラントレポート、さらには冷戦後の援助の世界の構造変化にいたるまでの間、開発援助にかかわる政府、援助機関、NGO の考え方やアプローチがどのように展開してきたかを論じている。

第 2 部は、この本の骨格ともいえる部分であり、精力的な取材にもとづいて、適正技術関連の事業の事例が、成功例、失敗例合わせて記述されている。その分野は、農業、農産物加工、エネルギー、建築資材製造にわたり、技術内容としては、アグロフォレストリー、家禽の飼育、灌漑、農作物の乾燥、製糖、種子からの搾油、調理用コンロ、マイクロ水力発電、石灰・セメント・レンガ・繊維強化コンクリートの製造などにおよぶ。その中で、適正技術は、とにかく発明が重視されがちであるが、それに劣らず普及のフェーズが重要であること、計画、経済性検討、品質管理、マーケティング、組織運営などにわたるプロフェッショナルな実務能力が要請されること、持続的な意思をもって関わり続けるリーダーや起業家が欠かせないこと、政策的支援が重要であることなどが指摘されていく。

第 3 部は、以上をふまえて、事業の持続可能性に関わる要因、女性を開発の主役とするための戦略、インフォーマルセクターの重要性と課題、グローバル化にともなう市場原理優先の政策への批判などを論じている。全体として、既存の成長戦略では貧困の問題や環境の問題を克服して世界を持続可能なものに導くことはできず、これまでの失敗に学んで、小産業、インフォーマルセクター、適正技術、女性の参加等を重視した開発に転換していくべきことを主張している。

図表や写真を一切用いていないため技術内容の理解がしにくく、また本書の骨格をなす具体事例の記述は全般に掘り下げが足りない感はあるが、2000 年の時点までの適正技術関連の活動や事業の実態を、そのプラス面・マイナス面を含めて把握できる意味からも、たいへん重要な著作といえる。

(田中直)

Smillie, I. *Mastering the Machine Revisited – Poverty, Aid and Technology*. ITDG Publishing Ltd., 2000 千葉敏生訳、2015、『貧困を救うテクノロジー』イースト・プレス、2015

## [目次]

はじめに

第1部 南北で繰り返される失敗

- 第1章 開発援助の歴史と変遷
- 第2章 発展途上国の貧困の実像
- 第3章 先進国の成長戦略への過信
- 第4章 第三セクターと第三世界

第2部 今、わかっていること

- 第5章 技術の進化と移転の歴史
- 第6章 成長戦略に代わる小さいことの価値
- 第7章 農業、畜産と持続可能な技術
- 第8章 収穫後の保存・加工技術
- 第9章 エネルギーと電力の移転
- 第10章 建築資材と中間技術、その普及と利益
- 第11章 大量生産と過度な工業化の代替案

第3部 前に進むために何が必要か

- 第12章 持続可能性、その虚構と現実
- 第13章 女性と技術に関する展望
- 第14章 雇用問題と非公式な産業
- 第15章 グローバル化と適正技術
- 第16章 技術を適正技術とするために